

地域コミュニティ
つくり講座

ピロリ菌をなくせ

玄界公民館
にて



ご高齢の方が多くにも関わらず認知症の方はゼロ！の玄界島

ベイサイドプレイスから、ニユーげんかいという船に揺られて三〇分。船を降りて棧橋を渡るとすぐ目の前が公民館。平田館長によると現在の島人口は四七〇人、島の周囲は歩いて四十分だそう。漁業に携わる方が多く、高齢者が多いにも関わらず認知症の方はゼロとのこと。島の皆さまの普段からの盛んなコミュニケーションを随所に感じる講演会となりました。講演後には直接三澤先生に質問をするため控え室にこられる方々も。熱心で活発なご意見をありがとうございました。

2015.4.9 (Mon)
10:00-11:30



アンケートには、参加頂いた全員に有難いご感想を戴きピロリ菌講演の頻布活動の必要性を改めて認識しました。一部

ご紹介いたします。

まず、ピロリ菌の除菌治療の適応は何歳までか？これには年齢制限はありません。ピロリ菌は、例えば保育園に保菌している親や祖父母から口移しなどの接触で5歳以下の子供だと感染しやすいのだそう。また人は一日一回胃液が口まで上がってくるためこのとき歯にピロリ菌が付着し冬眠状態で潜むそう。皆さん一番驚かれていたことは、ゲップでもピロリ菌は口まで上がってくるとのこと！

ピロリ菌の感染率は高齢になるほど高い

胃がんを撲滅するためにはなるべく若いうちにピロリ菌の有無を調べ、陽性ならできるだけ早く除菌治療を意識する必要があるとのこと。ピロリ菌の世代ごとの感染率は年齢にパーセントをつけるとだいたい一致すると言われていますが、がんでの死亡率低下は、ピロリ菌感染率の低下と言っているいかもしれません。医療技術の向上で

がんは必ずしも不治の病気ではなくなっています。

日本のピロリ菌はヨーロッパ諸国に比べ毒素が非常に強く欧米諸国に存在するピロリ菌は毒素が弱いので胃がんは珍しい病気とのこと。皆さんが引き締まったようでした。二〇〇五年には玄界島に甚大な被害を及ぼす地震が起きましたが今年には地震から十年、懸命な復旧のお陰で新しい県営住宅が出来、整備された公園には記念碑が建てられました。平田館長、そしてスタッフや島民の皆さま、小雨が朝から降っていました。足元の悪い中多くの方々にお集まりいただきありがとうございました。

平成24年から福岡市の公民館等で胃がん予防啓発活動の一環としてピロリ菌に関する講演を行っています。講演を希望される各種団体の方はお気軽に元気隊まで。

